

企画セッション

※参加申込をお勧めするものもあります※

【新型コロナ禍等における位置情報を含む

個人情報取り扱いについて】

10月23日（金）16:30-18:20

オーガナイザー：青木和人（自治体分科会）

今回の新型コロナウイルス禍に対して政府から公式に配布された接触確認アプリは、位置情報を扱わず、更に個人情報を蓄積しない方法で開発され運営されています。一方で、感染症の拡散を追跡するには、発生場所、時間、感染者の移動経路などの個人の位置情報が必要となります。

新型コロナウイルス禍だけでなく、今年も多くの被害者を出した降雨災害などの非日常的な事象に対して、自治体現場ではどこで何が起きているのか、更にいつ、誰が、どこで、どのような支援を求めているのかがとても重要な情報となります。

そこで本セッションでは、非日常的な事象において個人の移動等に関する位置情報はどこまで収集、提供できるのかについて話題提供をいただいた上で、メイキットと呼ばれるゲームツールを利用して、個人に関する位置情報の活用範囲やその具体的事例について参加者同士が議論し、自治体における個人位置情報の活用の可能性を探る検討を深めていきます。

申し込み先：

<https://www.kokuchpro.com/event/3b42f159ce986c8a4c5db189f6079370/>

【COVID-19における「GISと社会」を考える：

情報流通とデジタル地図における役割・課題・展望】

10月23日（金）18:30-21:00

オーガナイザー：瀬戸寿一（FOSS4G分科会）

COVID-19の世界規模での感染拡大に伴い、人々の行動制限や意識変化など社会的影響が高まる中で、地理情報に関する情報

伝達やコミュニケーションのあり方も劇的に変化した。そこで、本セッションでは「GISと社会」というキーワードのもとで、COVID-19に関わる地理情報の視覚化や行動地理学的側面〈地図・視覚化・データ分析編〉、そして社会的影響の相互作用としてオンラインを前提にした教育・協働活動における実践的な取組〈教育・コラボレーション編〉に焦点を当て、参加者とともに議論する。

【2020年度初等中等教育における

GISを活用した授業に係る優良事例表彰】

10月24日（土）10：30-12：10

オーガナイザー：中谷友樹（教育委員会）

2020年度に実施された、初等中等教育においてGISを活用した授業のうち、優良事例について表彰し、その内容を発表する。

選定結果：

http://www.gisa-japan.org/news/file/2020_award_GIS_.pdf

【第15回マイクロジオデータ研究会（第3回国際MGD研究会）

「マイクロジオデータを活用した新型コロナウイルスの

影響把握とウィズコロナ時代に向けた展望】

10月24日（土）13：40-17：40

オーガナイザー：秋山祐樹

本研究会は2011年に発足し、マイクロジオデータ（MGD：位置情報や時間情報を持つ時空間的に高精細なデータや統計の総称）の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来ました。MGDは既存の各種統計・空間データでは実現し得なかった、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。近年、MGD研究会はMGDに関連した研究だけでなく、「実社会での活用」にフォーカスを当てた活動にシフトしつつあります。そこで第15回なります今回は、現在も収束の兆しが見えない新型コロナウイルスの実社会への様々な影響の把握・分析がMGDにより、何がどこまでできるのか、どのような課題があるのか、また今後のウィズコロナ時代に向けて何ができて、どのようなこに取り組んでいくべきか、など

について国内外の事例を交えつつ議論を深めたいと考えています。 ※前半は講演、後半はパネルディスカッションを予定

【学生フリーテーマ発表会 2020】

10月24日（土）18：00-19：40

オーガナイザー：相尚寿（若手分科会）

昨年度大会に引き続き、若手分科会で「学生フリーテーマ発表会」を主催する。発表者を現役学生に限定し、研究成果、研究の進捗、演習などでのGIS利活用を報告する。また、来場者による投票を行い、優れた発表を若手分科会独自に表彰する。

【あいまいな時空間情報を分析するためのツールの開発と

その応用：

『あいまいな時空間情報の分析』出版記念シンポジウム】

10月25日（日）13：40-15：20

オーガナイザー：浅見泰司

だいたいの場所、だいたいの時間というような、あいまいな時空間情報の利用ニーズは多い。ところが、その分析手法は十分に開発されていなかった。2016年度に科研費の研究課題（基盤研究A）として採択された「時空間情報の次世代分析ツールボックスの開発と応用」（研究代表者：浅見泰司（東京大学大学院教授））では、あいまいな時空間情報を分析するためのツールの開発とその応用を進めてきた。本シンポジウムでは、これらの研究成果をまとめた書籍「あいまいな時空間情報の分析」の出版を記念し、あいまいな時空間情報を分析するための代表的なツールとその応用事例を紹介する。